

# 避難者はいま

届いていますか？  
避難者の声、さまざまな思い…

～福島・コミュニティと人びとの軌跡～

2014年 3月1日(土)

14:00(開場13:30～)～17:00 (終了予定)

場 所:神戸学生青年センター

(神戸市灘区山田町3-1-1 Tel.078-851-2760) 裏面に地図

参加費:1,000円

映画  
上映

制作者:堀切 さとみさん (2012年製作 56分)

「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録～」

トーク

・母子避難から3年

県外避難者(福島県郡山市)

・もとの生活回復を求めて

菅野昭雄さん(福島県双葉郡浪江町)

企画・コーディネーター:西岡英子(トモニプロジェクト)

多くの人の命を一瞬にして奪った東日本大震災から間もなく3年を迎えます。一方、阪神・淡路大震災は19年を迎えましたが、いずれも風化させてはいけぬ記憶です。このイベントは、東日本大震災と阪神・淡路大震災の被災地の人々が体験や思いを共有するために開催します。

今回は「福島原発事故」にスポットあてて、避難者の理解を深めます。震災後の福島原発事故の影響で、今も約14万人が福島県内外で長期避難を余儀なくされています。生活基盤の崩壊、家庭や地域の分断、経済的問題、健康不安…。様々な問題を抱えながら生きる避難者の思いを、映像と当事者の声を通して伝えます。会場では、県外避難者グループによるクラフト品、食品、手記などの販売を通して、支援の輪を広げます。







【制作者プロフィール】  
堀切 さとみさん

さいたま市在住。2008年より市民メディアセンター・mediRで映像を学ぶ。初めて作った作品は、上関原発建設に反対する祝島の人々を撮った「神の舞島」(20分/2009年) 2013年、「やよりジャーナリスト賞」特別枠期待賞受賞。

※「やよりジャーナリスト賞」  
国際的視野で女性や弱者の側に立ち続けたジャーナリスト・松井やよりの意志に連なる活動を続ける女性たちに贈られる、活動を奨励し支えるための賞。

福島第一原発のお膝元にあり、2011・3・11直後、全世界が避難勧告を受けた双葉町。事故から二週間後、街は役場機能を埼玉県加須市に移し、廃校となった高校(旧騎西高校)を拠点に避難生活を始めた。日本発の原発避難民。放射能から逃げるしかなかった人々。

「俺たちはどうせ忘れられていくのさ」という避難民のつぶやき……。4月。騎西高校には双葉町民のおよそ2割にあたる1400人が避難生活を始めていた。東京では脱原発のデモが起こっていたが、原発と共に暮らした町民の心境は複雑だ。原発を信じてきたこと。何もかも失ったこと……。いつ帰れるアテもない中で、避難民たちはそれぞれの思いを語り始めた。

毎日のように、ボランティアや有名人によるイベントが行われたが、避難してきた人たちは何もすることがない。そんな中、双葉町民は遠い埼玉の地でふるさとの盆踊りを実現させるが、不自由で先の見えない避難生活は変わらない。親子代々、東京電力で働いてきた田中さん一家は、爆発当時原発の中にいた息子のことを誇りに思っている。「今までずっと放射能を浴びてきたんだ」と言って、福島に戻っていった。その一方、望郷の念を捨て、騎西高校で書道教室を開く書道家もいた。去る人、残る人……。町民はそれぞれの一歩を踏み出したかにみえる。

11月。ついに騎西高校で、町民自身が思いのたけをぶつけ合う集会を開いた。賠償も進まず帰還のメドもたたず、ほったらかしにされた人々は「このままでは、国と東電に殺される」とさげふ。

【プログラム】

14:00～15:00

上映会

「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録～」

15:00～15:10

制作者：堀切さとみさんからのメッセージ

15:10～15:20…休けい

15:20～16:10

県外避難者のトーク

①母子避難から3年(郡山市より避難)

②もとの生活回復を求めて

菅野 昭雄さん(浪江町より避難)

16:10～

菅野さん質疑応答

17:00…終了予定

ご案内

宗景正 写真展

「気仙沼の被災と復興に立ち上がるひとたち」

聞き取り担当：西岡英子



3月1日(土) 14:00～16:00

参加無料

(会場)

芦屋市立宮川小学校

芦屋市浜町1-9

写真家の宗景正さんは、東日本大震災の被災地取材し、関西各地で写真展を開催。復興ひろばでも、気仙沼の被災写真や人々の声を伝えてきました。今回は芦屋市立宮川小学校で展示します。

お問合せは…ふれあい芦屋マダン 2014 実行委員会 090-8989-9344

◎他の会場でも展示を予定。詳細は、facebookなどで随時お知らせします

「べこっこMaMa」の  
トマトジャム

(大) 160g 840円  
(小) 50g 350円



「べこ」は東北弁で牛、「べこっこ」は子牛のこと。強く優しい母牛のように、大切な子どもを守り育てたい。東日本大震災で被災し、福島原発事故の影響を受けた地域から、子どもたちの安全を考えると神戸に避難してきたママと子どものグループ「べこっこMaMa」がプロデュース。こだわり農家・キャルファーム神戸さんのトマトを、田中哲人パティシエがじっくり煮詰めて美味しいトマトジャムに仕上げてくださいました。

物販コーナー



- ・手記『母子避難、心の軌跡』 泰松 明希子
- ・記録集『20年後のあなたへ』 避難ママのお茶パーティ
- ・記録集『みちのくだんわ室 一年の記録 2011.6～2012.5』 東日本大震災・暮らしサポート隊

「ぷらっとホーム」の  
手づくり小物



東日本大震災により兵庫県西宮市に避難してきた避難ママ・パパ達のグループです。主な活動は、交流会や弁護士相談会の開催して、避難者同士や兵庫の方々との交流の場づくり。支援物資の募集や提供。メンバーのネットワークを生かした生活支援相談。ママたちが作ったお菓子や手芸品、衣料品の販売、など。福島県会津地方特産の「会津もめん」を使ったクラフトが人気です。

■会場へのアクセス■

- ・阪急六甲より徒歩3分
- ・JR六甲道より徒歩10分
- ・新幹線新神戸駅よりタクシー15分

※当センターの駐車場は、普通乗用車で3台分のスペースしかありません。満車の場合は、近くの有料駐車場をご利用ください。

